

## ◇第14回 MR認定試験 平成19年12月

## 薬理学

No.	解答	解説	ページ
1	2	安全性薬理試験 → 毒性試験	15R
2	2	対症療法 → 原因療法	16L
3	1		18R
4	2	薬物受容体を介して → 受容体を介さない	24R
5	1		26L
6	2	有効である → 無効である	36R
7	2	筋肉内注射の方が速い	41L
8	1		42R
9	1		42R
10	1		45L
11	2	ワルファリン、ジギトキシン、ジアゼパムは独立したサイトを有する	45図7
12	2	イオン型分子 → 非イオン型分子	48L
13	1		48R
14	2	GLPは医薬品の <u>安全性</u> に関する非臨床試験の実施の基準	50L
15	1		54L
16	2	低分子でも体内の蛋白質と結合しハプテンとなり抗原性を示すこともある	55RL
17	2	活性化 → 阻害する	56R
18	2	用量依存性はない → 用量に依存である	57L
19	2	低下する → 上昇する	57L
20	1		47L, 60L
21	1		64R
22	2	阻害する → 促進する	65R
23	1		66L
24	2	コントローラー → 評価者 (医師)	71L
25	1		19L
26	1		25R
27	3	1 ; アセチルコリン    2 ; ノルアドレナリン	27図9
28	2		29L
29	3		30L
30	2		33R
31	3		42L
32	3		41R
33	2		41L
34	1		46R
35	1		47L
36	3		56R
37	1		62L
38	2		64L
39	2		65R, 67R

## ◇第14回 MR認定試験 平成19年12月

## 薬理学

No.	解答	解説	ページ
40	2		75R
41	2		
a	正		29L
b	誤	産生が抑制される → 産生される	24LR
c	誤	高血圧治療薬として用いられる → 治療薬としての応用は考えられていない	29L
d	誤	直接型の薬物 → 間接型の薬物	29L
e	正		29L
42	5		
a	誤	チロシン → コリン	29R
b	誤	副交感神経興奮に由来する作用 → コリンエステラーゼ阻害作用	30L
c	誤	可逆的 → 非可逆的	30L
d	正		30L
e	正		30R
43	1		
1	正		33L
2	誤	弱い → 強い	33LR
3	誤	確実致死量の50%の値 → 50%の動物が死亡すると推定される用量	33LR
4	誤	LD50-ED50 → LD50/ED50	33R
5	誤	広い → 狭い	33R
44	3		41L
a	誤	i.p. → p.o.	
b	正		
c	正		
d	誤	s.c. → i.p.	
e	誤	p.o. → s.c.	
45	4		46L
46	5		
1	誤	マウスとラット → 1種はげっ歯類で、もう1種はウサギ以外の非げっ歯類の2種以上	51L
2	誤	反復 → 単回	51L
3	誤	雌 → 雌雄	51L
4	誤	即時型 → 遅延型	52R
5	正		52L
47	3		55R
48	4		58R
49	5		60R
50	2		69L